

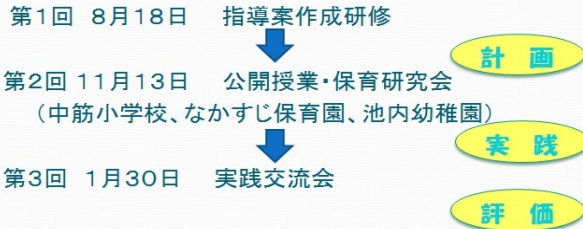
8月18日 保幼小連携研修を実施しました

参加園/校

| | | | |
|-----------|---------|---------|--------|
| 永福保育園 | 朝来幼稚園 | 朝来小学校 | 福井小学校 |
| 岡田保育園 | 池内幼稚園 | 余内小学校 | 三笠小学校 |
| さくら保育園 | 倉梯幼稚園 | 池内小学校 | 明倫小学校 |
| 相愛保育園 | 中舞鶴幼稚園 | 大浦小学校 | 由良川小学校 |
| 平保育園 | 舞鶴聖母幼稚園 | 岡田小学校 | 吉原小学校 |
| タンポポハウス | 三鶴幼稚園 | 倉梯小学校 | 与保呂小学校 |
| なかすじ保育園 | 舞鶴幼稚園 | 倉梯第二小学校 | (50音順) |
| 東山保育園 | | 志楽小学校 | |
| やまもも保育園 | | 新舞鶴小学校 | |
| ルンビニ保育園 | | 高野小学校 | |
| うみべのもり保育所 | | 中筋小学校 | |
| 中保育所 | | 中舞鶴小学校 | |

保幼小連携活動研修会の流れ

～全ての小学校区で連携活動の充実を図る～



日時:平成29年8月18日(月) 9:00～12:00

場所:舞鶴市政記念館 ホール

グループワーク

各協力校・園の年間計画をもとに連携活動指導案を作成する

講義

「連携におけるカリキュラムマネジメント～計画(指導案)及び評価

(記録、省察)の重要性～」

講師:鳴門教育大学大学院教授 木下光二先生

昨年度に引き続き、舞鶴市教育委員会、小学校教科研究会生活科部と合同で保幼小連携研修を実施しました。この研修では、協力校・園の小学校1、2年生担任と保育所・幼稚園の5歳児担任が1年を通じて(3回実施)一緒に学ぶ形で研修を実施しています。(上記図を参照)

第1回目今回は、各協力校・園ごとに昨年の連携活動の実践や反省を踏まえて、今年度の連携活動について活発に議論されました。

グループワーク

グループワークでは、各協力校・園の年間計画に基づき、1(2)年生と5歳児の担任が実際の連携活動の指導案を作成しました。その指導案に基づいてそれぞれが連携活動を実践し、記録、省察することが、今年度の研修となっています。代表して4つの協力校・園から報告していただきました。



【与保呂小学校 さくら保育園】

- ◎昨年の連携活動をたたき台にして計画した。
- ◎さくら保育園では、興味・関心に基づき、子ども主体で活動していることが1年生になった子どもの姿からもわかる。

<連携活動について>

『たのしい秋 秋見つけ 収穫 物づくり』

- ◎それぞれの園、校で秋見つけをし、収穫したものを持ち寄って物づくりをする。
- ◎みんなが同じテーマで取り組むということを通して、子ども自らが新たな発見をし、自分の言葉で思いを伝え、友達と協力してつくる。
- ◎物づくりをする楽しさを味わい、秋ならではの季節を楽しむ。
- ◎1年生と5歳児が共に活動することで相手を思いやる気持ちを体験する。

<ねらい>

- ◎1年生:身近な自然にふれ、秋の自然を生活の中に取り入れる。5歳児と関わりを持つ。
- ◎年長児:友達と一緒に活動したり、工夫したりする。

<活動の流れ>

- ◎事前に散歩し、秋見つけをする。
- ◎持ち寄り、おもちゃ作りをする。
- ◎発表し、つくったものを認め合う。

【木下先生 指導・助言】

- ◎「昨年をたたき台にして」が、連続性がありとても良い、そのための記録である。
- ◎担任が代わっても昨年の記録をもとに連続性を図っていくのが良い。
- ◎今年の担任がアレンジし、子ども主体の保育を受け入れた思いやりの活動が良い。

【明倫小学校 三鶴幼稚園 舞鶴幼稚園】

- ◎ペアで朝顔の種を植えた。園でも朝顔を植える、手紙でやりとりする、学校の朝顔を見に行くなど春から継続して活動している。

<連携活動について>

『朝顔の種 数えてみよう』

- ◎事前にそれぞれで種をとり、持ち寄って数える。
- ◎種をどうして数えるか話し合う。
- <ねらい>
- ◎1年生:色、形、種の種類、1つから多くの種がとれることを知り、数え方を工夫する。
- ◎年長児:種が育ってまた種になるという成長や種の数に興味をもつ。

<活動の流れ>

- ◎導入
- ・前の時間に種をとる。
- ・種の数あてクイズをする。
- ・興味関心によりグループごとに色々な方法で数える。(カップ、画用紙)
- ◎まとめ
- ・種を数え、どの種をどうするかをペアで話し合う。
- ・種とりを通してさらに活動を深めたい。

【木下先生 指導・助言】

- ◎春の朝顔の種まきからペアを作り、連続的に交流できている。
- ◎生活科だが、教科を越えて算数の要素が入っているのが良い。
- ◎キーワードは、数を数えさせるのではなく、数えたくて仕方がないと思える楽しい活動にする。
- ◎種の大きさに興味があれば、大中小と分けてもおもしろい。

グループワーク つづき

担任が代わっても昨年の記録をもとに連続性を図っていく。生活科は柔軟性、弾力性が大事。教科を越えて…同じ活動をして、クラスごとに 取り組みが違って良い。 ～木下先生 指導・助言より～

【岡田小学校 岡田保育園】

◎6月末に泥んこあそびをし、一緒にやりたいことをするなど自然の中でダイナミックに遊んだ。

<連携活動について>

『作ろう あそぼう どうしたら動かな』

◎廃材を利用し、生き物を作る。

<活動の流れ>

◎9月 材料で何ができるか話し合う。

◎並べたり組み立てたりしてイメージをふくらませる。

◎どんなものがよいか、作ったものが動くのか、大きなものかなど検討する。

◎グループごとに交流し、友達の良いところ、工夫したところを伝え合う。

【木下先生 指導・助言】

◎何年も積み上げてきた連携活動。失敗を経験し、積み上げられ、子どもたちが夢中になるような活動になってきた。

◎集める保育から集まる保育に。幼児も1年生も夢中になっているプロセスが見えた。

◎「動かす」のかどうかは、先生が決めず子どもたちが工夫する。

◎小学校の先生が、泥んこあそびで“ダイナミックな遊びができる”と言われた。この受け入れが良い。

◎幼児期に夢中になって遊ぶことでたくさん学び、1年生も夢中になって遊ぶ。

◎幼児期に育てたものが、児童期につながっていることが目に見えるような活動になっている。

【中筋小学校 なかすじ保育園 池内幼稚園】

◎11月に公開予定。昨年をもとに年間計画を作成した。

◎学校、園の規模、場所により交流に差があり、別々に交流することもある。

<連携活動について>

11月「つくろう あそぼう(秋の宝物を使っておもちゃづくり)」

9月 虫取り 10月 秋の物を紹介し合う。

◎当日までに秋の物で試作を作る。(どんな材料や道具があるかを考える)

◎1年生は自分たちが存分に活動する中で学び、5歳児からも学ばせてもらう。

◎保育園は昨年小学校主導で参加させてもらっていたが、今年は保育園からも意見を言わせてもらい、子どもたちも1年生に思いを伝える機会を持つように力を入れたい。

<活動の流れ>

◎おもちゃづくり、おもちゃ紹介

◎近い保育園は短時間で交流、池内幼稚園はビデオレターを使い交流する。

◎それぞれの園、小学校で取り組んでいる作りたいもの、それぞれの良さをいかし高めたい、学び合いたい。

【木下先生 指導・助言】

◎一方向からだけだったのが、園からも伝えられるようになったことが良い。

◎実体験から少しずつのステップアップでよい。

◎紹介はなくても見ている。一緒に作り一緒に遊ぶ活動が良いのではないか。

◎大きな学校は3クラス同じ活動をとってしまいがちだが、そこからの脱却が必要である。生活科は柔軟性、弾力性が大事である。

◎同じ活動をして、クラスごとに取り組みが違って良い。

◎大事なことは、3つの資質、能力を育てること。

講義

保育の質とは、「遊びの質」「環境の質」「記録の質」である。

幼児は遊び込む、児童は学び込む。

～木下先生 講義より～

<指導案について>

◎子どもの生の声、つぶやき、感想を入れると、指導案や単元構想表を作るときにリアリティが出てくる。

◎生の子どもの姿を大事にされて指導案を作っていく。

◎指導案、構想表、全体の記録だけでなく、子ども一人ひとりの記録(子どもの感想文、発見カード、クイズづくり、俳句づくり、教えてカードなど)を作ると一人ひとりの姿が見えてくる。

◎幼児期は一人ひとりの個性を大事にされている。小学校もそのことが大事であり、学んでいることは一人ひとり違う。

◎幼児期の遊びの中にどんな学びがあるか、小学校も一人ひとりの中にどんな学びがあるの



か、どんなことが育っているのか記録することが大事。

<連携活動について>

◎連携活動は幼児も児童も両方が夢中になるのがよい。

◎子どもたちのキーワードは夢中になる。幼児は遊び込む、児童は学び込む。

◎3つのC チェンジ、チャレンジ、カリキュラム マネージメントが大事。

<学習指導要領 改訂について>

◎接続が打ち出され、小学校も真剣に接続を考える必要がある。キーワードは“開かれた小学校”。

◎3つの資質、能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(以下「10の姿」)により、幼稚園、保育所、こども園の整合性を図り、どの施設でも同じ力を身に付け小学校にあがる。

◎保育の質とは、「遊びの質」「環境の質」「記録の質」である。

◎遊ばされるのではなく、自ら遊ぶ環境、自ら環境へ働きかけることが大事。幼児が遊ばされているのではなく、遊び込めているかが重要。幼児期を幼児期として過ごすことが保育

の原点。

◎園や学校で、子どもたちが主体的に活動するために何をどう変えていこうとしているかが大事。それを明確にしないと何も変わらない。

◎自発的な活動、生活科を中心に各教科等における学習に円滑に接続していく。

◎「10の姿」はねらいではない、ねらいは5領域にある。

◎「10の姿」を教えるために保育があるわけではなく、遊びのプロセスの中に入っている。遊びの中で学びをしっかりと捉えることが大事。

◎「10の姿」は、幼児教育を小学校にわかりやすく伝える共通言語として文科省が作ったものである。

◎1年生が学ばされているのではなく、学び込んでいるかが重要。

◎プロセスで何を学んで、何が育ったかを見つめ、園全体で話し合うこと。

◎日々の遊び、保育、教育の積み重ねが教育課程になっていく。

◎担任が代わってもできる、続くような活動を作っていく。

◎昨年の記録があれば、担任は代ってもつな
がりができる。(ビデオ、写真など)